

平成12年10月

建コン協・地質協合同釣り大会(秋季)結果報告

厚生委員会

恒例の両協会合同釣り大会では、10月7日(土)に天気にも恵まれ無事に終了をいたしました。今回は、女川での初の開催となりましたが海上の波も穏やかな状況のなかで養殖棚へのかかり釣りを実施しました。

参加者は29名でしたが、当日は上下水道コンサルタン協会の参加者24名と合流し総勢53名での釣果を競いました。

優勝は、東北地質の石川澄子さんと2.86kg、準優勝は東北地質の阿部純也さんが2.27kgでした。1.0kgを越えた人が10名と寂しい結果となりましたが時期はずれのハナダイ稚魚の餌取りが活発にありました。

例年のこの時期では、カレイ・アイナメの大型があがっており期待も高かったのですが今年の夏の暑さの影響が残っており、水温が高く釣果は残念な結果となりました。船頭さんのお話でも例年よりも2週間は時期がずれているそうです。

大会成績

優勝	石川澄子	東北地質	2.86kg
準優勝	阿部純也	東北地質	2.27kg
第3位	阿部淳一郎	大東設計C	1.83kg
第5位	田中國男	新日本設計	1.59kg
第10位	佐藤 勇	東建工営	1.04kg
B.B	佐々木千城	明治C	0kg
大物賞(カレイ)	井崎 豊	協和地下	910 g
“(アイナメ)	阿部純也	東北地質	400 g
特別賞(イナダ)	初谷和紀	日本上下水道	600 g

次回は来春に大型魚礁でのカレイを予定しています。

以上で今回の報告といたします。

大会幹事

国際航業(株)

佐藤 典夫

住鉦コンサルタント(株)

伊藤 義則

復建技術コンサルタント(株)

中川 昇

仙台カレイ釣り考

株式会社東北地質 石川澄子

仙台の近海で釣れるカレイ類の中で最もポピュラーなのがマガレイ(アカジガレイ)で、次ぎにイシガレイやマコガレイが続き、なんと言っても正月に欠かせないナメタガレイで締め括れます。

しかし別府湾の特定の海域でとれ、カレイの中で最も美味とされるシロシタガレイはマコガレイで、瀬戸内海はほとんどがマコガレイかイシガレイしかないそうである。その他スナガレイ、クロガレイ、マツカワ等々、北海道や北米太平洋側には30年以上も生き、体長が2.8mにもなるオヒョウなるカレイも生息しているのです。いやはや所変わればカレイ変わるである。

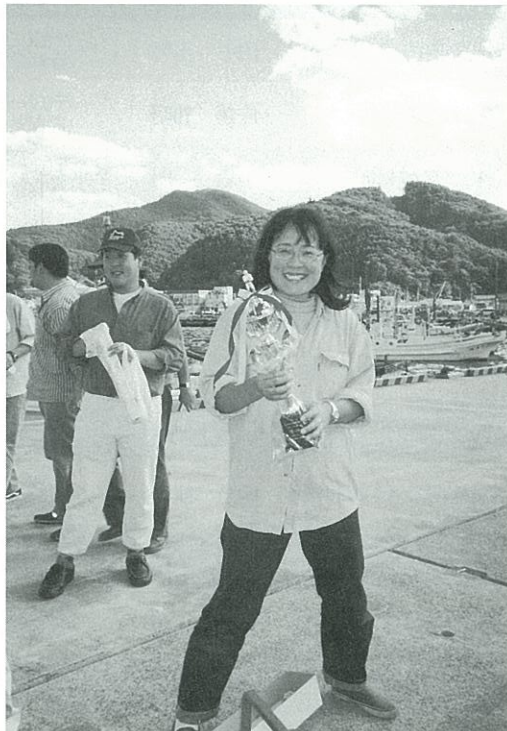
そういう訳で仙台中の大型魚礁で穫れるアガレイ(アカジガレイ)は、本当は大変貴重なのです。しかし、今年の6月頃からその釣果は芳しくなく、底引き漁が始まる9月にはついに1人2~10枚程度しか釣れなくなりました。

その理由のひとつに、ここ数年の夏の海水温度異常があります。特に昨年の海水温度はものすごく高く、手を入れると温かいお風呂くらいに感じる日もありました。

そこで、仙台湾に散らばって生息していたマガレイが住みやすいと感じる、水深40~50mの大型魚礁に集まって来たところを、私たち釣り人が乱獲してしまったのではないのでしょうか。昨年は、1人100枚以上釣れた日もあり、遠くは関東の方からも多くの釣り人達がマガレイ釣りを楽しんだはずです。

食してみれば刺身でOK。塩焼きにすれば甘みが出て美味。煮ればお袋の味。唐揚げにすればこれ又居酒屋の様にと、マガレイはどんな家庭料理にも合います。

しかし、これだけ数が減ってくると庶民の味ではなく、高級料亭の味になってしまいそう。と思っているのは私だけでしょうか。



魚たちに 合掌

建コン協・地質調査協合同釣り大会(秋季) H.12.10.7